

平和記念資料館の展示更新について

1 目的

被爆者が高齢化し、どのように被爆体験を継承していくかが大きな課題となっている中で、原爆の非人道性や原爆被害の凄惨さをこれまで以上に伝えていくため、平成 22 年 7 月に策定した「平和記念資料館展示整備等基本計画」（以下、「基本計画」という。）に基づき、平成 30 年度の完成を目指し、平和記念資料館の本館・東館を合わせた常設展示の全面的な更新を行います。

2 展示更新の内容

(1) 観覧動線の変更

平成 16 年度に実施した平和記念資料館来館者の観覧時間調査の結果、現行の観覧動線では、平均観覧時間約 45 分のうち被爆の実相を伝える本館の平均観覧時間は約 19 分で、観覧時間全体の 4 割にとどまっています。

このため、来館者が時間をかけて観覧できない場合でも、本館の被爆の実相に関する展示を十分に観覧してもらえるように観覧動線を変更します。

【観覧動線】

現 行	観覧時間	変更後	観覧時間
入館		入館（東館 1 階からエスカレーターで 3 階へ）	
東館 1 階 「被爆前の広島」 「原爆投下の経緯」	26 分	東館 3 階 「導入展示」 ～被爆前と被爆後の広島～	5 分
東館 2 階 「戦後の復興」		本 館 「被爆の実相」 ・ 8 月 6 日の惨状 ・ 放射線による被害 ・ 魂の叫び ・ 生きる	30 分
東館 3 階 「核時代」「平和への歩み」		東館 3 階 「核兵器の危険性」	10 分
本 館 「被爆の実相」 ・ 1945 年 8 月 6 日 ・ 熱線による被害 ・ 爆風による被害 ・ 高熱火災による被害 ・ 放射線による被害 ・ 救援・救護活動	東館 2 階 「広島への歩み」		
東館地下 1 階 企画展等	19 分	東館 1 階 企画展等	

(2) 更新後の展示構成

更新後は、観覧動線の変更と併せて、被爆の実相や核兵器の非人道性をより分かりやすく伝えていくなど体系的な展示とするため、常設展示の構成を「導入展示」、「被爆の実相」、「核兵器の危険性」、「広島への歩み」の 4 つの展示ゾーンに設定します。これらのうち、「被爆の実相」を中心的な展示と位置付け、都市の壊滅的な被害だけではなく、人間の被害により重点を置いた展示とします。

### (3) 「被爆の実相」の展示内容

基本計画に掲げた「被爆の実相」(本館)の展示整備方針に基づき、被爆の事実をストレートに伝える実物資料の展示を重視するなど、原爆の非人道性、原爆被害の甚大さ・凄惨さ、被爆者や遺族の苦しみ・悲しみなどをこれまで以上に伝えていくことができるような展示内容とします。

#### 【展示内容の具体例】

- ア 原爆の熱線、爆風、放射線が複雑に絡み合い、一瞬にして都市が壊滅し、多くの人々が亡くなり傷ついたことを示すため、廃虚の写真を背景に、大型資料や遺品、遺体や火傷を負った人々の写真を集合展示の手法で展示する。
- イ 川に浮かぶ数多くの遺体や皮膚が垂れ下がる人々の様子などの凄惨な状況や被爆者の苦しみなどを“市民が描いた原爆の絵”で伝える。
- ウ 被爆者の被爆状況や家族の思いを紹介し、一人一人の命の存在と重さや被爆者、遺族の苦しみ、悲しみを伝えるため、個々の遺品とともに遺影を展示し、あわせて被爆者の心の傷を伝える手記を紹介する。